



平成31年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成31年2月8日

上場会社名 松本油脂製薬株式会社
 コード番号 4365 URL <http://www.mtmtys.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 木村 直樹
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部副本部長 (氏名) 山田 正幸
 四半期報告書提出予定日 平成31年2月8日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 072-991-1001

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第3四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第3四半期	25,270	3.8	4,122	1.3	5,122	8.1	3,627	21.0
30年3月期第3四半期	24,339	3.1	4,174	18.7	4,738	1.1	2,997	2.5

(注) 包括利益 31年3月期第3四半期 3,235百万円 (10.7%) 30年3月期第3四半期 3,622百万円 (8.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第3四半期	1,120.99	
30年3月期第3四半期	926.09	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第3四半期	61,942	51,940	83.6
30年3月期	59,850	49,677	82.7

(参考) 自己資本 31年3月期第3四半期 51,798百万円 30年3月期 49,523百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期		0.00		300.00	300.00
31年3月期		0.00			
31年3月期(予想)				300.00	300.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	33,000	2.8	5,000	5.4	5,400	7.3	3,700	3.4	1,143.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期3Q	4,512,651 株	30年3月期	4,512,651 株
期末自己株式数	31年3月期3Q	1,276,500 株	30年3月期	1,276,340 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期3Q	3,236,258 株	30年3月期3Q	3,236,627 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報」(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、相次ぐ自然災害による影響を受けましたが、企業収益や雇用情勢の改善等を背景にして緩やかな回復傾向が続いています。しかしながら、米中の貿易摩擦の激化や海外の政治経済情勢の影響等により、先行きは不透明な状況が続いています。

当社グループの重要な販売分野である繊維工業関連におきましては、国内では生産拠点が海外に移転し、また国内大手顧客の不採算製品の生産中止及び体力強化のための事業構造改革の影響による販売量の減少などもあり、依然として厳しい状態が続いております。一方、海外の繊維工業関連におきましては、長年に亘り生産拡大路線を続けてきた中国繊維産業の設備投資に陰りが見え始めています。また、前連結会計年度に一部地域で発生していた工場の環境対策工事による操業停止や生産調整はほぼ終了いたしました。各業界内での企業淘汰の兆しが見え始めています。

非繊維工業分野におきましては、国内自動車関連では新車販売が軽自動車の回復で微増となり、建築関連は東京五輪関連施設の需要もあり持ち直してきております。海外自動車関連では米国及び中国で新車販売が減少し、世界的に新車販売の伸びは頭打ちの傾向にあります。

このような状況下、当社グループでは高品質で価格競争力のある製品の開発を行うとともに、市場ニーズに合致した製品の早期開発に注力してまいりました。また、国内においては、顧客の生産拠点の海外移転への対応を柔軟に行い、海外においては、主力の中国市場以外での拡販にも注力いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの業績は、売上高25,270百万円（前年同四半期比3.8%増）、営業利益4,122百万円（前年同四半期比1.3%減）、経常利益5,122百万円（前年同四半期比8.1%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3,627百万円（前年同四半期比21.0%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 日本

日本における当第3四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は24,724百万円（前年同四半期比4.0%増）、セグメント利益（営業利益）は4,103百万円（前年同四半期比0.9%減）となりました。

陰イオン界面活性剤の分野におきましては、国内繊維メーカー各社が縮小傾向の中、これまで堅調に生産を伸ばしていた不織布分野が停滞気味となっております。海外向けでは、化合織油剤、工業用活性剤の販売が不振となり、外部顧客に対する売上高は2,321百万円（前年同四半期比4.8%減）となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、国内では、アパレル業界における差別化商品の生産量アップの影響で売上が回復しましたが、産業資材分野におきましては顧客による生産調整の影響で低迷しました。非繊維工業分野では自動車ケミカル製品、トイレタリー分野が堅調で、前年同四半期を上回る販売となりました。海外向けでは産業用繊維分野、高機能繊維分野において大きく販売数量を伸ばしました。その結果、外部顧客に対する売上高は14,759百万円（前年同四半期比6.8%増）となりました。

陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、国内の繊維工業関連加工剤の販売は前年同四半期よりやや減少し、非繊維工業分野では両性イオン界面活性剤の不採算製品を販売中止としたために販売が減少しました。しかしながら、海外向けの化合織油剤が好調であったため、外部顧客に対する売上高は701百万円（前年同四半期比2.7%増）となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、繊維工業関連では、衣料の国内生産が低迷し、前年同四半期を下回る結果となりました。非繊維工業関連では、建築関連が需要期に入ったことにより一部回復し、自動車関連をはじめとする海外需要の取り込みもあり前年同四半期を上回る販売となりました。設備投資関連資材は、好調であった半導体市場の減速により前年同四半期を下回る販売となりました。その結果、外部顧客に対する売上高は6,941百万円（前年同四半期比1.7%増）となりました。

② インドネシア

インドネシアにおける当第3四半期連結累計期間の外部顧客に対する売上高は545百万円（前年同四半期比4.9%減）、セグメント利益（営業利益）は18百万円（前年同四半期比52.0%減）となりました。

非イオン界面活性剤の分野におきましては、スパン織物関係の経糸油剤やポリエステル糸油剤は順調に推移しましたが、ナイロン糸の紡糸油剤が低調となりました。その結果、外部顧客に対する売上高は287百万円（前年同

四半期比1.3%減)となりました。

高分子・無機製品等の分野におきましては、国内染工場の廃水規制強化により生産調整が行われており、また糸値の高騰で糊剤の使用量も低下しております。その結果、外部顧客に対する売上高は248百万円(前年同四半期比8.1%減)となりました。

陰イオン界面活性剤及び陽・両性イオン界面活性剤の分野におきましては、販売数量、販売金額ともに大きな進展は見られませんでした。外部顧客に対する売上高はそれぞれ3百万円(前年同四半期比24.0%減)及び5百万円(前年同四半期比13.4%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末(以下「前期末」という。)比2,092百万円(3.5%)増加して、61,942百万円となりました。流動資産は前期末比2,322百万円(5.0%)増加の48,961百万円、固定資産は前期末比230百万円(1.7%)減少の12,981百万円となりました。

流動資産増加の主な要因は、有価証券が3,083百万円減少したものの、現金及び預金が4,877百万円、受取手形及び売掛金が749百万円それぞれ前期末より増加したことによるものであります。

固定資産減少の主な要因は、建設仮勘定が470百万円増加したものの、投資有価証券が569百万円前期末より減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の合計は、前期末比170百万円(1.7%)減少の10,002百万円となりました。流動負債は、前期末比146百万円(1.7%)増加の8,840百万円、固定負債は前期末比316百万円(21.4%)減少の1,162百万円となりました。

流動負債増加の主な要因は、未払法人税等が252百万円、賞与引当金が140百万円それぞれ減少したものの、その他が496百万円前期末より増加したことによるものであります。

固定負債減少の主な要因は、厚生年金基金解散損失引当金が288百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産合計は、前期末比2,262百万円(4.6%)増加して51,940百万円となりました。純資産増加の主な要因は、その他有価証券評価差額金が380百万円減少したものの、利益剰余金が2,656百万円前期末より増加したことによるものであります。

この結果自己資本比率は、前期末の82.7%から83.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期の通期業績予想につきましては、現時点において平成30年5月11日に公表しました当初予想数値に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	30,081	34,959
受取手形及び売掛金	8,840	9,590
有価証券	3,085	1
商品及び製品	2,034	1,952
仕掛品	429	456
原材料及び貯蔵品	1,159	1,143
未収還付法人税等	0	-
その他	1,008	859
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	46,638	48,961
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	7,098	7,189
減価償却累計額	△5,121	△5,223
建物及び構築物（純額）	1,977	1,966
機械装置及び運搬具	12,001	12,066
減価償却累計額	△10,092	△10,295
機械装置及び運搬具（純額）	1,909	1,771
土地	530	529
建設仮勘定	56	526
その他	1,443	1,435
減価償却累計額	△1,312	△1,302
その他（純額）	131	133
有形固定資産合計	4,604	4,927
無形固定資産		
その他	25	36
無形固定資産合計	25	36
投資その他の資産		
投資有価証券	7,559	6,990
その他	1,029	1,036
貸倒引当金	△7	△8
投資その他の資産合計	8,581	8,017
固定資産合計	13,211	12,981
資産合計	59,850	61,942

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	6,493	6,537
未払法人税等	791	538
賞与引当金	295	154
その他	1,113	1,609
流動負債合計	8,693	8,840
固定負債		
退職給付に係る負債	922	914
厚生年金基金解散損失引当金	288	-
資産除去債務	106	107
繰延税金負債	90	74
その他	71	65
固定負債合計	1,478	1,162
負債合計	10,172	10,002
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,090	6,090
資本剰余金	6,519	6,519
利益剰余金	42,747	45,404
自己株式	△7,317	△7,319
株主資本合計	48,038	50,693
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,639	1,258
為替換算調整勘定	△115	△154
退職給付に係る調整累計額	△38	1
その他の包括利益累計額合計	1,485	1,104
非支配株主持分	153	141
純資産合計	49,677	51,940
負債純資産合計	59,850	61,942

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
売上高	24,339	25,270
売上原価	17,194	18,163
売上総利益	7,144	7,106
販売費及び一般管理費	2,969	2,983
営業利益	4,174	4,122
営業外収益		
受取利息	53	72
受取配当金	82	87
持分法による投資利益	131	70
為替差益	219	701
その他	90	84
営業外収益合計	578	1,015
営業外費用		
支払利息	0	0
投資事業組合運用損	6	7
支払手数料	-	2
その他	8	4
営業外費用合計	14	14
経常利益	4,738	5,122
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却益	-	2
有価証券売却益	-	13
厚生年金基金解散損失引当金戻入額	-	19
特別利益合計	0	35
特別損失		
固定資産除却損	1	20
退職給付費用	428	-
特別損失合計	430	20
税金等調整前四半期純利益	4,308	5,137
法人税、住民税及び事業税	1,362	1,355
法人税等調整額	△61	150
法人税等合計	1,301	1,506
四半期純利益	3,006	3,630
非支配株主に帰属する四半期純利益	9	2
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,997	3,627

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年12月31日)
四半期純利益	3,006	3,630
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	597	△380
為替換算調整勘定	△16	△41
退職給付に係る調整額	20	2
持分法適用会社に対する持分相当額	14	24
その他の包括利益合計	615	△395
四半期包括利益	3,622	3,235
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,618	3,247
非支配株主に係る四半期包括利益	3	△11

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
外部顧客への売上高	23,765	573	24,339
セグメント間の内部売上高 又は振替高	249	35	285
計	24,014	609	24,624
セグメント利益	4,140	38	4,179

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,179
棚卸資産の調整額	△4
四半期連結損益計算書の営業利益	4,174

II 当第3四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計
	日本	インドネシア	
売上高			
外部顧客への売上高	24,724	545	25,270
セグメント間の内部売上高 又は振替高	192	13	205
計	24,916	559	25,475
セグメント利益	4,103	18	4,121

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	4,121
棚卸資産の調整額	0
四半期連結損益計算書の営業利益	4,122